緑に囲まれた静かな環境で老人に安らぎを・・・・

老人いこいの家がオープン

今年の8月下旬から建設していた「老人いこいの家」が完成し、12月3日からオープンします。
同施設は、獅子ケ森山のふもとの緑に囲まれた静かな環境で、老人のための心身の健康増進、安らぎと教養の向上を目的に、国民年金からの還元融資を受けて総工費約6，500万円で建設されたものです。

オープンした老人いこいの家

同施設は、総面積626平方㍍の木造モルタル平屋建となっており、内部にはゆっくりくつろげる広縁つきの8畳和室が4室、64畳敷の大広間や趣味を活かしながら技術を身につける作業室、さらには明るく広い浴室などが配置されたすばらしい施設となっています。
この完成により、生涯教育の推進や老人相互の交流親睦など幅広い活動ができるものと期待されます。
今後、市ではこのような施設を2～3カ所設置する予定にしています。
なお、この施設の運営管理は、社会福祉法人大館市社会福祉協議会へ業務委託されます。

＜使用手続等について＞
・使用申込　老人いこいの家へ直接申し込んでください。
電話　42―1772
・休日　毎週月曜日および12月29日から1月3日まで
・使用できる時間　午前9時から午後5時まで
・使用料　無料
・交通案内　バス―鳳鳴高校前発，獅子ケ森行の終点で下車し、そこから北（獅子ケ森山の方）へ徒歩で5分のところにあります。

国際児童年記念植樹
子供らがツツジを市民の森に

今年は国際児童年ということで、大館市子供会育成連合会（菅純一郎会長）では、先月18日に市民の森で記念植樹を行いました。
この記念植樹は、子供たちに夢を与え集団行動を通して社会参加に対する自己を認識させようとの趣旨で企画されたものです。
当日は、前夜来の雪まじりの雨で、はだ寒い天候でしたが、市内子供会から小学校5、6年生の児童約130人、それに役員や父兄の方々合わせて約150人が参加して行われました。
開会式に引続き、市民の森駐車場東側斜面にツツジの木150本を植樹しました子供たちは雨ガッパに長ぐつの服装で、降りしきる冷めたい雨の中それでも元気に1本1本ていねいに植えていました。
このツツジは4年生の苗木で、4・5年後にはいっせいに花を開き訪れる人の目を楽しませてくれることでしょう。市で今後は肥料をやるなど大事に管理していくことにしています。

国道103号線
山館地内バイパス開通

早期完成が待たれていた、山館地内の国道103号線バイパス（延長580㍍）が先月20日から開通しました。
同バイパスは、県が総工費約1億6千万円で今年6月から工事を行っていたもので、この開通と同時に大型車の通行も可能となり、冬場の扇田橋での渋滞緩和にもなり、運転者から喜ばれています。

どんとこい冬将軍・対策は万全

12月に入り、いよいよ雪との戦いの季節になりました。
今年の除雪計画は、住民サービスの使命のもとに、国、県、市役所が緊密な連絡をとり、3者が一体化した除雪計画をたて、市民の足を確保し、みなさんの生活に支障のないよう全力をあげることにしています。
その計画は、国道7号線は建設省大館国道出張所が、国道103号線及び管内の県道は北秋田土木事務所で行うことになっています。
とくに、市道の除雪対策としては、市のスノーロータリー車や、今年新しく購入した除雪タイヤローダー車など7台のほか、市内業者の除雪車90台、あわせて、97台の機動力のもとにバス路線、基幹道路、その他日常生活上最も影響を及ぼすとみられる道路（生活道路）及び通学路の確保に力を入れるとともに、歩行者の安全のために歩道の除雪も行うなど万全を期すことにしています。
なお、除雪をスムーズに行うため次のことについて、市民のみなさんのご協力をお願いします。

◆ 家のまわり、屋根などの雪は、道路に出さないようにしてください。道路にワダチが生じ、交通事故の原因になります。
◆ 自動車等の路上駐車は、昼夜を問わず絶対にやめてください。除雪作業に支障をきたします。

新購入の除雪タイヤローダー

◆ 除雪は除雪グレーダー車などの大型車でするため、家屋の入口をふさぐ場合がありますので、各自で処理するようご協力願います。
◆ 雪捨ての場所は、長木川左岸の西大橋300㍍下流と下町橋上流300㍍付近の2カ所を指定しますので、それ以外には絶対捨てないようにしてください。またゴミ等を混ぜて捨てないようにしてください。
◆ 除排雪作業のため、道路を一時しゃ断することがあります。
◆ 作業上、沿線の耕地や付近の閑地へ排雪せざるを得ない事態が生ずることがありますので、ご協力をお願いします。

市長の対話ノート
No. 6

誇り高き文化の香り

文化の日を中心に今年も市民文化祭が盛大にひらかれました。
作品発表展示、芸術発表など日ごろの守り育てられた文化活動の数々にふれることができまして、あらためてその活動に敬意を表します。
大館に生れ育ったものから、交流や移入されたものまで大館の文化は引きつがれてきましたが、これを更に発展させて行かなければなりません。
そのためには、文化の素地、底辺の拡大を図って行かなければならず、文化会館はそのために必要な施設であることは申すまでもありません。
文化は生活の中になければなりません。ところが私たちの最近の生活の中には文化の心どころか、生産の心しかないのが実態ではないでしょうか。今こそ生活の中での文化を問い直さねばと考えます。

再び減反に問う

米が余っている。余るほど米をつくることは不経済だだから余らないように減反することは当然だ。食管法を守るために、何度繰り返した論議でしょう。
農業者には不本意ながらこの説得に従って来ましたがこの期に至って更に余剰米が多くなるということで減反が55年度から強化されようとしているのです。
これは明らかに農政の失敗が招いたものです。米中心の農政の行詰りに他なりません。農業者の財産としての農地保有が兼業化を増長するとか、価格保障制度の作目拡大とか、適地適作の推進とか、それなりに必要なことは誰も否定しませんが、それよりも大切なことは、日本の農業を守ること、従って輸入産物とどう対処するのかという土台を定めることだろうと考えます。
具体策はその上に出来ることです。国や県に求めるものは求めますが、市、農業団体、農業者で出来るものは何か、まず、そのことをキチンとやって求めるべきものを求めて行きたいと思います。

生活が土台

社会の動きは一刻も休むことなしに動き続けています その動きは人間の意に沿うとか、反することかにかかわらず……と見えますが決してそうではありません。すべて利害、得失が背後にあるということ、つまり生活が土台にあるということでしょう。
生活を犠牲にした行動はあり得ないということです。ただ露骨に前面にそれが出るか、形をいろいろ変えて出るかの違いです。
ところで生活を土台にした行動や要請を軽視することは出来ません。労働の根源は生活にあるからであり、働く意欲は生活が出発点となっているのです。意欲的に働くかどうかは、労働の賃にも量にも不可欠となっているのです。その意欲を引き出す管理は画一的には行かないまでも権利とか義務ではなく、管理するものの能力ということになります。従ってそこのところはお互におまかせといのことになってもよいのではないでしょうか。

新しい発想の80年へ

あと1カ月で1980年です。80年だから社会が急変してよいものではありませんが、少なくとも70年代の延長であってはならないでしょう。社会を動かすのは人間です。その人間の意欲が社会を動かすのですから、発想を転換し、新しい手、80年への展望をもたなければと思います。この一年、いや70年代を正しく反省し活力溢れる生活を求めて、新年の計画を立てましょう。
どうぞよいお年を

岩山信九郎